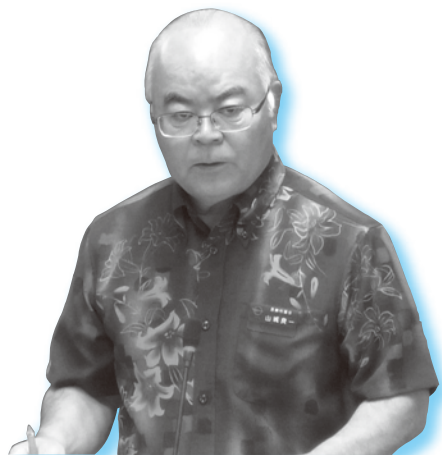


◆◆◆ 山城 良一 議員 ◆◆◆



◆◆◆ 前兼久漁港施設用地利用

今年度には、前兼久の方に提示できるように努めて参りたい。

質 平成29年度で不陸整正の予算が計上されておりますが、工事概要等、今後の方向性について伺います。

答 農林水産課長 佐渡山安正
今年度の予算計上の部分は凸凹があつて、それを修正するための重機での不陸整正を計上しております。

前兼久漁港公園施設計画について、漁協や前兼久と調整が図れるように、現在作業を進めている。

◆◆◆ 恩納村交流施設の設置及び管理に関する条例

質 6月定例会会般質問「指定管理している公共施設につきましては、公共施設だと認識しております」と答弁されました。

「公共施設の管理に関する協定書第5条（施設の維持経費）、2施設の改修、改善等については乙が負担するものとする」とつまり、乙は区長であります。公共施設と認めるのであれば、

恩納村公共施設整備基金条例を適用し、甲、つまり村が負担し、条例を改定し、協定書を見直す必要があると思うが、できるかどうか。

答 総務課長 新里勝弘
計画当初から「自治公民館」と位置付けし、地元と調整、整備を行ってきた。

今後、改修、修繕については、各区の御協力をお願いしたい。

質 協定書、第5条について、負担の限度額等ありませんか。

□頭での協議の上となつていないのですが、協定書に金額を謳わないのは何故なのか。

答 社会教育課長 大城保篤
交流施設等については、当初から維持管理は任せる前提になっておりまして、金額は定められておりません。

質 3月定例会会の議案第8号、総務財政文教委員会の委員長報告が、「財源の厳しい公民館、交流施設や多目的施設の修繕費については、村で負担して頂くよう検討すべき課題の一つと考える」との意見に対し、「担当課長のみで判断できないので、村長、総務課、

関係課も含めて協議する機会を持つことを提案したいと思えます」と報告されたが、どのような話し合いがされたのか。

答 社会教育課長 大城保篤
全課ではないが、総務課長を中心に、私とは協議をいたしております。

質 どんな協議をしたのですか。

答 総務課長 新里勝弘
区とも今後の修繕のあり方と、いつとも考えていきたい。他の指定管理の覚書に関しても、庁議の中でも協議は進めていくと考えております。

質 5条を、改定する意気込みはあるのか。予算審議の中で仲泊の交流施設「あしびなー」と予算計上されております。

今後、財政の厳しいところでこういった面が発生した時にどうするのか。

答 村長 長浜善巳
「公共施設の維持、補修管理は、各自治会が自主的に進めてやって貰いたい」というのが、私の考えでございます。

◆◆◆ 佐渡山 明 議員 ◆◆◆



◆◆◆ サングの被害状況と今後の対策

質 去年の被害状況を伺います。

答 農林水産課長 佐渡山安正
天然サングは、恩納以北はほぼ生存している。恩納から谷茶にかけては約70%が生存。谷茶から宇加地にかけては、ほぼ死滅している。

養殖サングは、恩納漁港前で約99%以上の生存。前兼久北側では

60%、南側で90%生存している。

質 谷茶から南側は壊滅的な状況。地域特有の原因があるとお考えでしょうか。

答 農林水産課長 佐渡山安正
県自然保護課において、現在の地域差について調査を行っているので、改めて報告します。

質 赤土流出や生活排水によるバクテリアの増殖なども白化被害を大きくすると言われておりますが、考えを伺います。

答 農林水産課長 佐渡山安正
現在、環境コーディネーターを配置し、赤土流出の対策に取り組んでいる。生活排水等による影響を抑えるためには、引き続き下水道を整備すると同時に、接続率の向上に努めて参りたい。

質 県を代表する観光地になれた要因や、漁業資源と自然災害を防ぐ防波堤機能を与えてくれたのも海でありますので、我々村民にはサング礁を守っていく責任があるのではないのでしょうか。

答 村長 長浜善巳
村漁協でサングの養殖、オニヒトデの駆除が行われている。

◆◆◆ 安定的な漁獲量の確保に向けた取り組み

村も関係機関と連携を図り、自然環境の保全と再生に向けた取り組みを推進して参りたい。

質 平成10年に起きた白化現象の後からエビ、タコ、イカ、カニ、ウニ類の漁獲量は減っており、平成15年あたりからモズクの収獲量は大きく変動いたしました。

安定生産に向けた取り組みを、お聴かせください。

答 農林水産課長 佐渡山安正
海の生物の約33%がサングに頼って生活していると言われ、サングが死滅すると魚類も棲みかを失います。

特にモズクについては、サングの白化が起きた前後に水揚げ量が減る傾向にあるとのデータがございますが、詳しい因果関係については分からないのが現状です。

アーサについては、県内一の漁獲量を誇っておりますが、昨年は過去最悪の不作に陥りました。

屋嘉田潟原を中心としてアーサ、モズクの育苗圃がございます。そういった意味からしても、屋嘉

田潟原の環境改善に向けた取り組みを引き続き推進して参りたいと考えています。

質 瀬良垣漁港内には臨海実験施設もでき上がり、様々な研究が行われますが、村としてOISTと連携した協議会を設置されているのでしょうか。

答 農林水産課長 佐渡山安正
サングの遺伝的多様性、高水温に強いサングの研究等についても、これから漁協と連携して取り組みが行われるように、村からもOISTに対しては協力を求めて参りたいと考えています。

質 行政が主体になり、大学院大学と連携を図っていく組織を立ち上げ、高海水温にも強く、収獲量の多い高品質のモズクについて研究を行って頂きたいとか、具体的な提案を行っては如何でしょうか。

答 村長 長浜善巳
自然環境の変化に強い品種を改良していくという取り組み、OISTもやっておりますので、村としても連携していきたい。